



しゅぶや ひでとし  
澁谷 英利氏  
澁谷工業株式会社  
代表取締役社長

2024年6月期の連結決算で売上高(1,154億円)と純利益(97億円)が過去最高となった澁谷工業株式会社(金沢市)。ボトリングシステムの国内トップメーカーとして確固たる地位を築き、パッケージングプラントとメカトロシステム、農業システムの3つの事業で幅広い製品づくりを展開しています。今年8月には中期経営計画「シブヤ上げ潮戦略」を策定、30年6月期の売上高2,000億円を目指しています。澁谷英利社長に未来ビジョンを伺いました。

Shibuya

## トップインタビュー 澁谷工業株式会社

# 2031年に創業100周年 「上げ潮」で持続的な成長を

### 高齢社会のニーズに対応

—増収増益となった2024年6月期の決算について、どのように受け止めておられますか。

増収についてはコロナ禍が収束したことに伴い、社会経済活動が正常化し、どの事業分野も回復基調に乗ったことが大きな要因です。増益の要因は3つあり①プラントに占める他社製品の割合が減少し、原価率が低下したこと、②お客さまの新製品に対応する改造工事が増加したこと、③社内プロジェクトによる一段のコスト削減効果が出たことが挙げられます。

—決算発表時の会見で、澁谷社長は「海外より高齢化が早い分、先進的なニーズが生まれる日本市場は面白い」とおっしゃっていましたね。

日本はいま世界最速で高齢化が進み、25年後には人口が1億人を割る予想もあります。健康寿命が延びた人生100年時代の高齢社会や、人口減による人手不足の職場では働き方の変革が必要とされます。日本はデフレからの脱却のため、高収益事業への再編や産業構造の構築が求められているのも

### 金沢、能美に新工場建設

—土地の取得費を含め総額175億円を投資し、金沢市と能美市で工場4棟を建設すると発表されました。

金沢テクノパークに新たな土地を取得し新設する1棟と、森本と能美の各既存工場に増設する2棟の、計3棟の新工場では、無菌充填システムの部品加工・組立を行う計画です。また既存の医療機若宮工場を増改築するもう1棟の新工場は、人工透析用の医療機器を製造する予定です。

4つの新工場は2025年7月から順次着工し、27年1月までの稼働を目指す方向です。

フィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を実現する条件が整いつつあるとも言えます。

—医療機若宮工場はどのような生まれ変わりますか。

生産管理システムによる適切な部材調達や、入荷・在庫業務の自動化による工数削減、製薬向けに当社が開発したfusion SOP(作業手順のタブレット端末化や協働ロボット導入による組立・調整工程の自動化など)に取り組みます。これにより、トータル品質向上やコスト削減、人手不足への対応迅速かつ柔軟な出荷対応が可能になる見通しです。

—一貫通貫DXで受注増に対応へ

—サプライチェーンのDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組まれるそうですね。

これまで客先向けDX優先で開発しましたが、社内用DXとして今年、受注増に対応するため「一貫通貫」ものづくりDXプロジェクトを発足しました。これら3工場では、3Dデータを活用したバーチャルエンジニアリングを採用し、後工程の作業を初期工程に前倒しする「フロントローディング」の推進を柱に、ものづくりのDX化と自動化を導入し生産効率を向上させる予定です。

プラントの設置は設計、製造、現地工事の順に工事を進めますが、従来の現場接続や手直し調整では工数やコストが増えています。設計段階で仮想空間の3D検証で見える化し、工程全体の作業負担を軽減します。また図面や加工データの活用と自動化、複合工作機械やロボットの導入による加工工程の効率化などに取り組みます。

### コア技術を異分野展開

—中期経営計画「シブヤ上げ潮戦略」について、伺います。計画ではどのようなビジョンを描いておられますか。

当社は常にカスタマー・ファーストを貫き、「喜んで働く」

を創業の原点とした企業理念を承継し、飲料や食品、医療、農業、半導体など生活に不可欠な業界の製造を革新するリーダーをビジョンとしています。ダン

トツ製品でお客様の繁栄をサポートすることをミッションとして、培われた技術の応用展開と新技術の融合による新製品開発、新市場開拓、新事業創出にチャレンジし、グローバルナジールを活かしたグローバル展開を通して、計画を遂行していきます。

—中期経営計画では、貴社の強みとして、コア技術を活用した異分野の展開などを掲げておられますね。

当社は、創業者が酒造業界へ蒸した酒米を広げる際に使う麻布や付帯器具を販売したことに始まります。その後、一升瓶の洗浄から充填、多品種兼用ボトリングシステムへと事業を展開、発展してきました。

ビール業界からの要請で、レーザーで容器に賞味期限を印字する技術を導入したところ、他業界からレーザー加工の仕事が入るようになり、半導体や医療機器へ進出するきっかけになりました。無菌空間を作り出す技術は、製薬や再生医療などへ応用されています。

ボトリング・無菌技術を「コア技術」としたイノベーションを他の事業分野へ拡大してきたのが、当社の歴史です。顧客に直結した営業・サービス体制や、DXを活用したもののづくり、予実原価管理による独自の経営管理体制、M&Aによる業務拡大なども当社の強みであり、これからの成長に結びつけていきます。

### 海外市場で新市場開拓

—新市場の開拓に向け、中期経営計画で海外市場の拡大をうたっており、お聞きします。グローバル

展開の構想をお聞かせください。

現在は製造拠点を日本と米国、中国の3カ国に36工場、営業サービス拠点を日本、米国、ドイツ、中国、台湾、タイ、マレーシア、インドネシア、インドの9カ国・地域に30オフィス

を構えています。うちインドネシアとインドは今年、開設したものです。

インドネシアでは、これまで飲料PETボトルや注射剤バイアル用の無菌充填システムなどを納品しています。経済成長率が高く、設備投資への意欲も非常に旺盛です。戦略的に重要なマーケットと位置づけており、新拠点の開設によってき

め細かなサービスを展開していきます。インドは、上位中間層の拡大に伴い大都市圏内に先進国並みのライフスタイルが普及し、人工透析用の医療機器の需要が高く、近年は半導体製造装置の納入も増えています。

成長戦略において、海外市場はとて重要で、米国でも来年、新たにニューヨーク州とオハイオ州にサービス拠点を開

### NITTE大学と連携

—企業の成長に欠かせない、優秀な人材の確保に向けた取り組みを教えてください。

シニア層向けの人事制度として、定年退職者(2023年より定年を60歳から65歳に引き上げ)が70歳まで勤務するかの退職を選べるAtWill制度を導入しています。さらに社員本人と部門役員の申請があれば、シニアアドバイザー契約を結び、70歳以降も柔軟に勤務する制度も新たに作りま

した。女性や外国人の総合職採用にも力を入れています。技術系の新卒内定者は昨年今年も2割近くが女性です。外国人の

### 相応の体力と瞬発力備える

—売上高2000億円へ懸



次世代型無菌充填システム「トリプルボトリングシステム」を開発、販売



インドのNITTE大学と優秀な人材確保と産学連携を目的とした覚書を締結

### 能登へのメッセージ



地震後、豪雨後の、甚大な被害を受けた能登の様子を見て、愕然とし、悲痛な思いを抱きました。被災された皆さまへお見舞いを申し上げます。復興が本格化する中、半島という地形的な条件もあり、過去災害の事例にない特別なシナリオが必要になるかもしれません。当社にはふるさと能登の復興を支援したいと、県外企業から転職した方もいます。同じ石川県民として、当社は復興に向けてできることを実行していきます。能登の皆さまの平穏な暮らしが戻ることをお祈りしています。

World Leading Technology

Shibuya

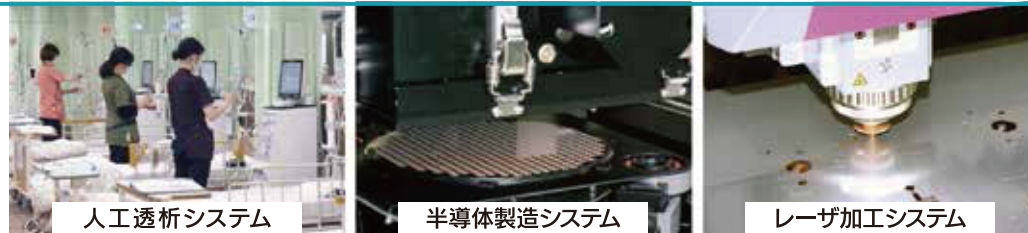
世界106か国で活躍するシブヤの製品



飲料無菌充填システム

再生医療システム

食品加工システム



人工透析システム

半導体製造システム

レーザー加工システム